7月分市況報告書　　報告者　中島良晴

調査日　群馬県森林組合連合会共販所　7月2日

梅雨明けの発表はまだの様だが、そんな事は関係なく間違いなく夏は始まっている。
最近の陽気は、春が過ぎるといきなり夏が始まる。夏の間に梅雨前線が雨を降らせる。
春・梅雨・夏・秋霖・冬と言うサイクルは消滅した様だ。梅雨と言う穏やかな季節は無くなり、
線状降水帯が多く発生する、危険な夏があるだけだ。

前橋の市の方は入荷は少なく収まっており、皮剥けの激しい材が少しづつ
入荷している。

この時季の入荷としては、ほぼ全量がを売り切ってなおかつ複数枚の応札があるのは良い
状況だと言える。
内容を見てゆくと、4.0m材が多くこれが功を奏している様だ。
3.0mの柱用材は　9号・23号　のみで、後の3.0m材は太すぎる30cmφ以上の物件で、造材を
してゆく際に、何らかの理由で4.0mが採れなかったものとみえる。　材質は悪くないのだが長さが
今の建築では使い道が無い為に、値は出ない。　かつては　四面無節で四面柾目しかも
芯去りと言って、年輪の芯を持たない柱として化粧様に用いられた。
芯を持たないという事は、干割れが起きないという事であり、4面柾目というのは大きな丸太の
外側の部分で、柱の角の対角線の方向に年輪が通っているときにのみに現れる価値のある
柱だ。大きな丸太の外側部分は、年輪が詰まりかつ年輪の弧は直線に近くなる。節は無い。
縁側の柱など、四方から見える場所に使う特別な柱なのだが、今は用途が無い。

四面赤身無地の四方柾目（役物）
（外側に近く節が出ない所・割れの
原因となる芯を持たない芯去り材）
芯持ちの一等材（割れが入り節がある）
（割れが入り、芯に近いので節がある）

大型工場が3.0mの柱の大量生産に軸足を置く中で、4.0mの桁材やヒノキの4.0mの土台用
丸太は慢性的な品不足になっている。
買い方も4.0m材の出荷を減らさない様に、価格を維持しながら支えている様だ。
ヒノキは少し弱めに転じている。落札価格は今の時季にしてはまずまずなのだろうが、2番札が
付いて来ていない。　角材用の太さなら万年品不足の筈だが、季節が悪い。
我が組合も、大量生産出来る工場に直送しているが、今は特に良い出荷先である。

今の所　虫害はこの暑さと皮剥けのお陰でなりを潜めているが、伐採してから製材までの時間を出来るだけ短くするに越した事は無く、その意味で回転の速い工場で処理出来るのは好ましい。
林産事業の機械化に伴う”皮剝け”を含めて、この時期を乗り越えるには良い環境になっている。

ストック材の回転の遅い工場は、工場に持ち帰ると直ぐに皮を剥いて置くとの事だ。
　昔の話だが、スギの皮は売り物であった。 今頃の時期に伐倒すると、まず45cmの長さで杉皮に切れ目を入れ、竹べらや鎌を使って剥いて行く。 これを束ねて1束辺り〇〇坪という面積単位で売っていた。 今では黒い防水紙に置き換わった屋根の下地材にするためだった。
皮を皮を剥いた丸太は表面が乾くのを待って搬出するのだが、この時早くに搬出して置けば虫害を抑える事も出来た。 しかしこの乾燥材は当時としては伐り旬が悪い事で一格落ちであった。
今は皮剥きで在庫する買い方で昔を知る人に聞いてみた。 すると 「工場で皮を剥く事、そして間を置かずに製材する事で昔とは違う」 との事だった。
ただ 「今の丸太の買い方は材の良し悪しを知らなくても買える。 昔とは違う価値観で原木が動いている。」 と言った時少し寂しそうだった。
　まぁ　かく申す　私も古い方の価値観の人間です。

調査日　素材生産協同組合　7月7日

こちらの市も出荷が少なく、荷降ろし場は広々としている。 入荷材が途切れている様にも見えるが、国有林材が2台分ほど入荷している。 その他ヒノキが少し降ろしてあるのが見えた。
前橋の市場は、入荷に関しては閑古鳥が鳴く状態だが、販売事業自体は全森連を通して全国ネットにつながり、そこそこの直送販売がある様だが、素生協は市場の事業が主力なのでそうそう収まっている訳にもいかない様である。 とは言え、今の時季にドンドン出荷されても毎回完売して、すぐに引取を完了させなければならないのは無理があるので微妙な所だ。

広々と空いた荷降ろし場(7月7日　素生協市場の様子)

虫害については、広葉樹が多いこちらの市場では　クルミ　の被害が多いと言う。
広葉樹は梅雨の時季に土場に椪べてあると、良くヒコバエが伸びたが今はこの暑さでせっかく伸びたヒコバエが枯れている。 昔は見られなかった光景だ。
針葉樹についても、被害は出ているが、やはり皮剥けの進んでいる所へこの高温が続き虫の被害は最低限にとどまっているとの事だった。 実際 土場を歩いた限りでは被害木は1本しか見つけられなかった。 市場では針葉樹に関しては選別機の台の上で1本づつ転がしてみている訳であるから、もう少し虫害の実態を把握しているものと思う。
市の方は、3.0mが失速している様だが、余りにも数量が少ないので正確には断じかねる。
これに対して、4.0mはよく売れている。　価格は特別良い訳では無いが、失速することなく売れ続けている。 やはり 今するべき造材は、4.0mに重心を置くべきであろう。
前回の報告でも触れたが、こちらの市はヒノキが強い。
前橋の市が4日前だったが、こちらでは　19,000円/㎥～20,000円/㎥に達している物もある。
素生協の市場の話では、前回もこれ位は出ているという事だった。 前回の素生協の市は6月26日なので、今回報告した県森連の市よりも前という事になる。
今回ヒノキを高く買っている買い方には、4日前に前橋でヒノキを買っている買い方も入っている。
どちらにしても数量は極端に少なく、出荷者も違う事なのでこれも原因は判らないが、いずれにしても常連の買い方の中にヒノキに強い業者が居れば、値段は高めに振れる事は間違いないだろう。 その点素生協の方が買い方の顔ぶれが豊富であるように感じる。
買い方にも特色があり、県森連と素生協の両方に顔を見せる買い方で、県森連では発表を聞き、自札が不落札になればその札に上乗せして再入札で落札してゆく。 この時再入札の交渉権は、不落札になった1番札の人にあるのが、暗黙のルールの様になっていて、この人が不在ならばフリーという事になる。
一方素生協では針葉樹の買い方は入札結果の発表まで残る人は少なく、発表時に残って聞いているのは広葉樹業者が多く、知らない人も多い。